



朝日理事長に聞く

未来のビーチデザイン



ビーチデザイン

私たちが描く未来のビーチ空間はこれまでの波打ち際機能だけではなく、自然に開かれた都市空間として活用していきます。スポーツやイベント観戦用スタンド、ステージ、ウエディングやレストランなどの商業施設、日よけベンチ、図書館が設置された公園機能を設けて、ビーチの資源を最大活用し、空間の価値を高めていきます。

3色の砂

未来のビーチは、ビーチ空間の用途に合った性質の砂で構成します。波打ち際では、水分を含むと固く締まり、護岸の観点でも適した砂を活用します。スポーツイベント地の砂には、誰もが心地よく感じ、色、感触とも最上級の砂。歩行や砂遊びなど、アクティブな砂活用が期待できます。

複合空間を生み出す

ビーチは一足伸ばした先にあるものではなく、気軽にアクセスできる場所。陸地が砂かの2種類の選択ではなく、複合空間として滞在できて過剰な接砂に触れることなく、駐車場の完備やバリアフリーも設置されて、すぐそばでビーチを感じることができる環境が、私の描いている未来のビーチデザインです。

DAIBAビーチスポーツフェスティバル2016が5月5日祝・木、東京都港区おだいはビーチで開催された。ビーチゲームズ日本招致推進プロジェクトの一環として開催されているこのイベントは、「みんなで行こうよービーチパーク」をテーマに、誰でも無料で様々なビーチスポーツを体験できる。今年は新たにビーチドッグボールが加わり、お台場のビーチは賑わいを見せた。3回目となった今回は、お台場海浜公園の入り口付近にビッグアーチと特設ステージを設けて、一般の観光客の目に触れるように導線を仕掛けた。

参加者アンケートを収集した結果、57%が初めて体験した。「初めて観戦した」と回答。また、体験会においては、家族連れでの参加も非常に多く、ビーチスポーツの魅力を知ってもらった。また、体験会においては、家族連れでの参加も非常に多く、ビーチスポーツの魅力を知ってもらった。

海辺での安全意識

私がまだ大学生だった昭和40年代、すでに全国の多くの砂浜で浸食による海岸線の後退が問題になっていた。当時、全国トータルで毎年100ヘクタール前後の砂浜が失われている。という研究報告もあったように記憶している。最も大きな原因は、供給される土砂の絶対量が減少したことである。沿岸部における砂の移動」を選んだのも、このような伏線があったからかもしれない。

とも溺れるぞ。しっかりと顔を向けて波に合せて呼吸を」と一喝。私はその一言で我に返り無事に生還できたが、この記憶は40年経った今でも機会あるごとに鮮明に蘇ってくる。当協会の遊佐雅美理事、現副理事長から「善事」に愛する人を助けた。2013年、の推薦者になってほしいとの依頼があった時、即座にお引き受けした。それは、私の貴重な体験を通して、海や水辺での遊びやスポーツには常に危険が隣合わせであることを子供たちや親御さん、多くの人に認識してもらいたかったからだ。安全意識を向上させる取り組みが必要であることを痛切に感じている。

新たな客層に知ってもらう機会



今回の対談では、ライフセーバーの飯沼誠司さんにご登壇いただきました。通常はビーチから海を眺めているが、クルーザーに乗船し東京湾の海からビーチを一望しました。普段とは逆の視点から見る港・レインボーブリッジ、おだいはビーチの造形はそれは美しい彩られ、我々の生活にかかせないシンボルを見せつけられました。今回掲載した我が目指す未来のビーチデザインにおいて、ビーチの資源を最大活用し、人々の用途に合った空間を築き上げ、その価値を高めていけるように尽力して参ります。これからは、観光資源としても大いに期待できるビーチで、日本中を覆い尽くす未来を期待しています。

あなたの街のビーチや港を紹介しませんか？「はだし文化新聞」では、皆様の街のビーチや港の情報を随時募集しています。ぜひご意見をお寄せください。〒104-0033 東京都中央区新川1-17-3 階 NPO法人日本ビーチ文化振興協会？はだし文化新聞2お便り係メール：info@jaebc.jpファックス：03-3552-1220

ツボを押さえて読むほどハまる！

はだし文化新聞

No. 5 2016 7/5

2016年7月5日発行(1月・7月・10月発行) 通巻 第5号
発行/印刷/法人日本ビーチ文化振興協会
編集人/朝日健太郎
〒104-0033 東京都中央区新川1-17-3 リーサイド茅場町3階
電話 03-3552-1171

編集スタッフ/吉田幸衣 (BeachvolleyballStyle)
デザイン/島内泰弘デザイン室

INDEX

- 1面 特別対談:飯沼誠司×朝日健太郎
いのちの大切さを海辺で学ぶ
特集:ビーチスポーツの魅力を開発
連載:朝日健太郎が目指す砂ソムリエ
連載:Beach Athlete Interview
連載:New Sports Power
連載:おらが街のビーチ自慢
特集:朝日理事長に聞く未来のビーチデザイン
特集:DAIBAビーチスポーツフェスティバル2016
連載:私のビーチ考
編集後記:はだしの足跡

特別対談 飯沼誠司

×朝日健太郎

海辺の安全を守るライフセーバーの飯沼誠司さんは日本代表を引退後、朝日理事長とともに大学院でスポーツ科学の研究に取り組んだ同志だ。

そんな二人が新たな取り組みで、海辺で学ぶ「いのちの大切さ」、安全な環境づくりの重要性について語った。

Photo: Shota Murata

朝日 我々は大学院でスポーツ科学を学んで、苦業をともにした同級生なんです。飯沼 海やビーチなど共通のテーマもあったので、それぞれのプレゼンを聞くのが楽しかったですね。朝日 さんは砂の研究に熱心でした(笑)。僕も海をフィールドにしてきましたけど、砂に着目したことがなかった。で、そういう見方もあるんだと興味深かったです。朝日 お互いの発表にすごく刺激を受けましたね。飯沼さんが取り組んでいた「救命救助を学校教育に取り入れる」というテーマに共鳴しました。飯沼 研究当初は「教育よりも競技に焦点を当てていたんですよ。大学院に入学した頃、代表チームの監督に就任するタイミングで、日本のライフセービング競技が発展させるにはどうしたらいいの、というテーマに取り組もうと考えていました。けれども、ライフセービングがメ

ジャー競技になったとしても、果たして自分の目的は達成するの、か、というのを改めて考えました。「教育を浸透させることでライフセービングを広めていったほうがいいのではないかと、担当教授の平田竹男先生のアドバイスをいただき、方向性を見出すことができました。朝日 確かに「競技」という視点から考えると、タイムを0.1秒縮めたいとか、ライバルに勝ちたいとか、そういう部分为主体となるけれども、飯沼さんのお話を聞いていると、海辺とか水際とか自然に近いところで競技しているからこそ、と安全性を考えていく必要があります。飯沼 過去20年間を見ていても、水難事故の数は減っていないです。実は、水泳は幼稚園小学生で男女ともに習いたい競技1位なんです。それなのに、水辺で溺れる事故は減っていない。だからこそ、子供たちの教

育の一貫として人命救助が浸透していけば、事故は減っていくのではないかと考えています。朝日 自然にふれながら競技をすることは、社会的なことを考えるきっかけになると思います。私自身もインドアバレーボールからビーチバレーボールへとフィールドを移した経緯もあり、自然環境のど真ん中にいると考えさせられる機会は増えますから、お子さんたちがスポーツを通してはだしになる機会を与えたいですね。飯沼 そうですね、ずつとライフセービングをやってきて、水難事

故や人が亡くなるシーンをこの目で見てきた。その経験を通じて感じたことは、海より上のフィールドで人が倒れたときに「ライフセーバーがいたら助かる」「いなかったら助からない」という現実ではなく、ライフセーバーじゃない方でも人の命を救えるような環境を作りたい。例えば、話の救急車の到着が遅れた場合、人が亡くなってしまう可能性もあるかもしれない。でも、救急車が到着するまでにAEDを使える人がいれば、助かる確率も高まります。？2面に続く？

いのちの大切さを

海辺で学ぶ

安全への対策は海辺のブランディングに有効

朝日健太郎

Kentarō Asahi

誰もがリスクマネジメントできる環境を目指したい

飯沼誠司

Seiji Inuma



日本財団 THE NIPPON FOUNDATION 海と日本 PROJECT

このイベントは、海と日本プロジェクトの一環で実施しています。

夢から感動へーハートテクノロジー 東洋建設

はだしコラム



第2回 私の日本ビーチ考 鬼頭平三 Heizo Kito NPO法人日本ビーチ文化振興協会 顧問 一般財団法人みなと総合研究所 理事長

New Sports Power ④
〈ビーチで生まれた新競技〉

文／小崎仁久

ビーチドッジボール Beach Dodgeball

誰もが笑顔で遊べるニュースポーツ



上：ドッジボールの入門的スポーツを目指す
下：子どもでも遊び感覚でできるのが魅力



誰 もが子どもの頃に一度は遊んだことのあるドッジボール。ただし近年では競技性も高まり、競技人口は日本ドッジボール協会（JDBA）に登録している選手だけでも、小学生を中心に2万人を超える。そのドッジボールを砂の上でやるというのがビーチドッジボールだ。

ただしビーチドッジボールは、レクリエーションとしては以前から行われていたものの、競技としてはまだ産声を上げたばかり。ルールもテスト段階で、現在は1チーム5～8人、片面8m×8mのコートで行う規定。もう一歩、遊びの要素を盛り起したいという狙いもある。



「日本のベニス」と呼ばれる風情のある運河・内川



富山湾の味自慢は「シロエビ」、ホタルイカ「フリ」、シロエビは多彩な食味があり、フリとした食感や品の味が大人気です。ホタルイカは幻想的な青白く光る姿が、富山湾の神髄と呼ばれています。新鮮から味わえる刺身は地元ならではの味。フリは富山湾の王者「刺身」しか食べられない、その味わいを堪能できます。

ビーチサッカーはもう9年目のシーズンです。以前はJリーグのアルビレックス新潟などでプレーしていた26歳の時に引退しました。その後友人に誘われて、ビーチサッカーを遊びでちょうど始めたのですが、すぐにハマりましたね。

ビーチは通常のサッカーと比べて得点が多く、展開も速い。オーバーヘッドのようなアクロバティックなプレーがよく見られるのも特徴です。僕が魅了を感じるのは、シフトもパスも砂の上なので自分の思い通りにはならないことです。砂の質によってもプレーは変化し



上：普及のため、スクールにも積極的に参加
下：通常のサッカーと比べて展開が速いビーチサッカー



上：普及のため、スクールにも積極的に参加
下：通常のサッカーと比べて展開が速いビーチサッカー

Beach Athlete Interview ③
〈ビーチアスリートを追え〉

田畑輝樹

砂の上では思い通りにならない。
それがビーチサッカーの魅力。

ビーチサッカー

PROFILE

1979年4月16日(37歳)、鹿児島県出身。鹿児島実業高卒業後、アルビレックス新潟に入団した。その後、かりゆしFC、FC琉球、静岡FCでプレー後、2005年、引退。引退から2年後の2007年4月、ビーチサッカーを始め、ビーチサッカー日本代表に選出された。

朝日 事故に遭われた方々は被害者としての意識はあると思いますが、日常生活の中で当事者意識を持つている方々は非常に少ない状況です。そんな中、事故を未然に防いでいくことがすごく大切で、飯沼さんが中心になつて開催しているいのちの教室の活動もお手伝いしていると考えています。

飯沼 昨年、私が設立した一般社団法人アスリートセーブジャパンが行っている「いのちの教室」ではアスリートが講師となり、AEDや自動体外式除細動器の使い方、心臓マッサージの方法を子どもたちに教えています。日本は一般市民による除細動が行えるようになって12年目、人口に対して世界で一番AEDが設置されている国です。それなのに使える人が少なすぎるというのが逆に問題視されています。AEDがどこにあつて、誰が使えるのかをもっと目に見えるわかるように可視化されることが必要だと思っています。

朝日 アスリートが子どもたちに指導するのも、ポイントですね。受け手の子どもたちからしたら「オリンピックに出たすごい人？ 体がすごく大きい人？」という背景がうっすら見える中で教えてもらうより、響きやすい逆にアスリート側からし

か、公式戦や日々の練習中、1分1秒を争う大きな事故が起きたときの対処法を知っておくだけでも大きく違いますね。飯沼 もちろん何も起こらないことを願いますが、何か起きたときどう動けるかを想定しておかないと、ライフセーバーでも毎回シチュエーションは違いますが、指導を受けている人間でもパニックになることもありま

すのか、どちらかの作業になります。けれども、海辺を狭めてしまふのは本来の楽しみ方ではないですから、海辺の安全とリスクマネジメント、両方を理解して海やビーチの環境を築いていかないと、活性化につながっていかないと思います。

朝日 安全への対策は、海辺のブランドینگにも有効ではないでしょうか。現在は、トイレやシャワー、駐車場、海の家などの施設情報を記載したマップは見かけますが、AEDの設置、ライフガードの常駐などが目でおかれますが、安全マップができるような安全マップができたらいいますね。砂ソムリ工も全国に浸透してきましたので、

一目でわかるような海辺の安全マップを作ってください。飯沼 そうですね。ハートのスタンピング安全色合いが目でおかれます。安全色合いがあればいいですね。ライフセービングにも限界はありますから、海水浴場を利用する方がいかに未然に事故を防げるかに尽き、と思います。海辺でお酒を飲み過ぎたり、危険水域で泳ぐことが多発するとか、安全の質を上げようとも関係なく事故は起きてしまう。海辺を利用する人、守る人たちの意識がマッチしない限り、永遠に救命率は上がっていきません。だからこそ、「教育への導入を目指す」と思います。

東京都神津島村 前浜海岸 少ケレーがかった落ち着いた色合いが美しく、上品な表情をしている。粒の大きさが整っており、踏み心地よく安定している。この砂は、景観としての艶、踏んだ時の感触、スポーツ利用時においても良好で、どのシーンにおいてもマルチに活用できる偏差値中央値であり、かつ優等生砂でもある。活用度が高いことから、東京都港区・お台場海浜公園のビーチ造成にも利用されている。評価は、はだし二つ半。優等生がゆえに、それぞれのポイントが平均的で、鋭い特徴に欠ける。しかし、言い方を換えれば、永く親しめる砂であることは間違いない。



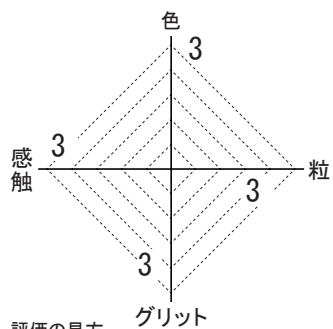
事故があつたからという学校がほとんどなので、事後対策がやなくて、未然に対応することが大切だと思います。朝日 その分母が大きくなればなるほど、事故時の被害は減っていきますね。子どもたち世代に家族でビーチやレジャーを体験してもらいたいですよね。自然の雄大さ、スポーツにはダイナミクスがあるけれど、そこには安全が確保されていないと、家族は安心して楽しむことができない。海辺の楽しいソフトと安全が共存していくことで、ビーチ文化も定着していくはずですから。



飯沼氏が設立した一般社団法人アスリートセーブジャパンが行っている「いのちの教室」では、AED（自動体外式除細動器）の使い方、心臓マッサージの方法を専用のキットを使って子どもたちに教えている

東京都神津島村

前浜海岸



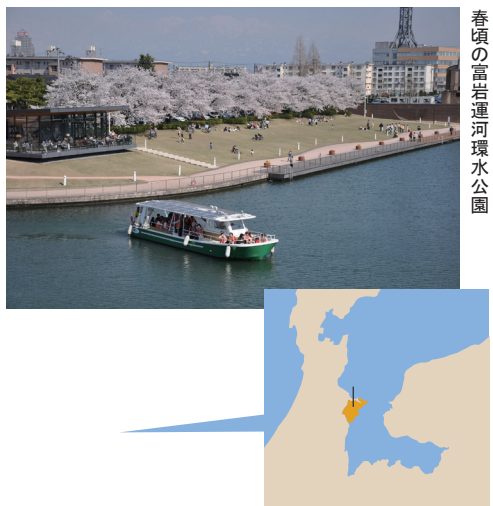
評価の見方
 ■色：白色度
 ■粒：サイズの均一度
 ■グリッド：踏んだときの剛柔
 ■感触：踏んだときの気持ちよさ

総合評価
 <はだし>
 1つ半!!

第5回



元フロビーチバレーボールプレイヤー！朝日健太郎が各地の砂を踏んで触ってビーチスポーツにふさわしい砂を選ば、砂ソムリ工は、足跡の数で評価する。足跡3つが最高だ。さて連載第5回で取り上げるのは、東京都港区のお台場海浜公園のビーチ造成にも利用されている東京都神津島村・前浜海岸の砂。



地域DATA
 人口 ● 富山市：約42万人、射水市：約9.2万人
 代表ビーチ ● 岩瀬浜海岸（富山市）、海老江浜海岸（射水市）
 観光名所 ● 松海王丸パーク（射水市）、環水公園（富山市）
 名産 ● シロエビ、ホタルイカ、フリ
 宿泊施設 ● 富山駅周辺にホテル多数
 射水市：新湊第一ホテル等

日本の海洋文化が根付く街



射水市の観光名所・海王丸パークと新湊大橋のライトアップ

世界で38ある美しい湾の一つに選ばれている水深1000mの富山湾、標高3000m級の壮大な立山、高低差4000mのダイナミックで自然の美しさを感じられる地形は富山の財産です。天然のいけすから水揚げされる海の幸も豊富。過去には北前船の寄港地だったこともあり、祭りの湾。海洋文化が根付いています。射水市の新湊の観光スポットといえば、海王丸パーク。新湊大橋と立山が並んだ景観も絶景で

年間100万人が訪れます。富岩運河環水公園からの遊覧船、運河沿いを走る「富山ライトレール」に乗れば、廻船問屋の旧家の街並みを一瞥いただけます。岩瀬浜は、富山県最大の海水浴場であり、ビーチイベントを盛り込んだ「富山湾ふれあいビーチフェスティバル」が開催される予定です。

富山湾の味自慢は「シロエビ」、ホタルイカ「フリ」、シロエビは多彩な食味があり、フリとした食感や品の味が大人気です。ホタルイカは幻想的な青白く光る姿が、富山湾の神髄と呼ばれています。新鮮から味わえる刺身は地元ならではの味。フリは富山湾の王者「刺身」しか食べられない、その味わいを堪能できます。